

# 賛助会員として海外留学の効果を考察する

八木 智裕<sup>A</sup>

## 1. はじめに

グローバル人材には色々な定義があるが、ここでは文部科学省の要素Ⅰ（語学力・コミュニケーション能力）、要素Ⅱ（主体性・積極性、チャンレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感）、要素Ⅲ（異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ）をもとに考える。各要素の夫々は主観的な評価は可能なものの客観的な評価は難しく、かつ一朝一夕に獲得出来るものでもない。

そこで当法人はサイトに時間軸と空間軸を見据えた「つながり」並びにグローバルに通じる人材育成において、ACTFLに準拠した言語コミュニケーション力の評価をベースに、サービスを相互学習する法人と記載しているように学習者（学生のみならず社会人になってからの生涯学習も含む）の最適なタイミングに最適な場所で学んだ成果を可視化して「つなぐ」ことにより継続学習の促しになると考えて活動を行っている。

## 2. 海外留学の形式と意義

グローバル人材育成に向け、学内授業・企業研修において色々な取組が行われているが、それは各要素の部分獲得・向上・鍛錬の域に留まることが多く、全ての要素を学ぶ海外留学に勝るものは無い。

海外留学にも語学学習・異文化体験型等工夫はされているものの経済的・時間的制約を考えたベストマッチは難しく結果として目的・効果・成果の曖昧な体験型或いは極論すると海外旅行？と疑われるケースも見受けられる。

このことは海外留学では無いが、海外赴任時に短期インターンシップ研修等を受け入れた際に現地スタッフのモチベーション低下を招いた経験によるものである。そこで青山学院大学からの依頼を契機<sup>1)</sup>に要素Ⅰの可視化サービスには拘った「つながり」設計を行っている（EVEサービス<sup>2)</sup>）。

学内授業・企業研修においてACTFLに準拠した言語コミュニケーション力の評価をCBT（OPIC）で検証・改善が進む反面、海外留学の要素Ⅰ視点での効果検証や改善が思うように進んでいないように感じる。

今回、開示許諾を頂いた事例を検証することにより、経済的・時間的制約を少しでも踏まえた海外留学或いは留学以前の疑似学習との「つながり」について叩き台を提供したい。

## 3. 海外留学における要素Ⅰの実態考察

まずは海外留学における要素Ⅰの有り方を考える材料として、少し古いデータになるがグローバル人材育成教育学会 第5回全国大会でポスター発表<sup>3)</sup>を行った図1をご覧ください。

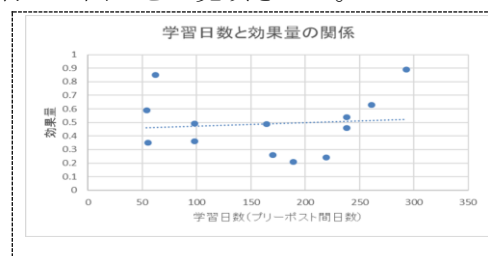


図1 学習日数と効果量の関係

図1には先駆的な学内学習も含まれる訳だが、表1に纏めた大学留学の効果と

A: 一般社団法人 Global8

比較しながら、効果的な海外留学について考察を試みたい。

表 1 紹介大学の概要

大学名	地域	実施時期	評価人数	留学前M	留学後M	効果量	備考
A校	東北	'13	10	4.5	4.4	-0.06	
A校	東北	'14	18	3.9	4.7	0.63	一部海外評価
A校	東北	'15	17	3.9	4.4	0.67	海外評価中
NZホスト	東北	'1	5	3.6	4.4	1.45	
USAホスト	東北	'1	8	4.0	4.5	0.54	
A校	東北	'16	19	3.8	4.6	0.74	海外評価
B校	関西	'15	8	3.8	4.1	0.65	
北海道情報大学	北海道	'16	7	2.1	2.4	0.35	
北海道情報大学	北海道	'17	9	2.4	2.9	0.51	
摂南大半年留学	関西	'14	5	4.4	5.2	1.45	
摂南大1年留学	関西	'14-'15	11	-	5.1	-	IH到達有
摂南大新コース	関西	'16	26	3.6	4.3	1.13	準備期間あり
同上 半年留学	関西	'16-'17	13	4.2	5.2	1.45	IH到達有あり
C女子大短期	関東	'16	20	3.0	3.7	0.85	

表 1 の A 校から北海道情報大学についてはグローバル人材育成教育学会第 5 回北海道支部大会において理工系学生の育成視点で報告させて頂いた。<sup>5)6)</sup>

限られた考察対象で断言することは出来ないが、以下のような可能性を考えている。

- ①海外留学効果は学内授業等に比べ顕著である。
- ②外国語学部等以外の学生にとっての短期海外留学は効果が認められるものの、定着は困難なレベルである。
- ③評価を含めた留学プログラムの継続は、ノウハウの伝承等計画者のみならず参加者にとっても効果蓄積が伺える。
- ④留学先は要素 I に限ると近隣諸国の方が効果的である。
- ⑤外国語学部等の語学留学は要素 I に関して目的が明確なこともあり他の学部学生より効果が顕著である。
- ⑥外国語学部等の語学留学は短期～中期が一般的には効果が見受けられる。
- ⑦外国語学部等の語学留学の長期留学は要素 I のみを目的とするなら相応のレベル達成可能な学習者において効果的であり、それ以外の学習者においては専門領域や文化的要素を盛り込んだ留学を設計すべきと考える。
- ⑧外国語学部等における短期語学留学は初級レベルには効果的であるが、中級者にとっては全体が初級者上達に合わ

せる傾向が見受けられるため、中級者にとっては要素 I のみでは効果が疑わしく、他の目的を意識させるか、中期の留学を推奨すべきと考える。

#### 4. 現状考察の検証と今後への挑戦

今年より海外留学を支援するグローバル人材育成教育学会の賛助会員でもあるエキサイト T & E 株式会社<sup>7)</sup>並びに株式会社留学ジャーナル<sup>8)</sup>に当法人賛助会員として入会頂いた。目的は海外留学を支援するのみならず、その効果をより適切なタイミングと方法で評価・フィードバックすることにより、より良い海外留学を検討者に寄り添う形で情報提供出来ないかとの思いである。

未だ、費用対効果に追加費用を捻出出来るのは企業研修なので実績の蓄積並びに考察は、これからであるがまずは先行実施した内容についても一部紹介を行い今後の検証方向についての助言を賜りたい。

#### 引用・参考文献

- 1) [http://global8.or.jp/JAGCE\\_Hokkaido3.pdf](http://global8.or.jp/JAGCE_Hokkaido3.pdf)
- 2) <http://global8.or.jp/eve.html>
- 3) [http://global8.or.jp/JAGCE17\\_poster.pdf](http://global8.or.jp/JAGCE17_poster.pdf)
- 4) 4 技能重視の英語教育への転換～新カリキュラム 1 期生の 2 年半の経過報告／松田早恵・鳥居祐介・後藤一章（摂南大学）  
[http://global8.or.jp/2017JACET\\_Set-sunan.pdf](http://global8.or.jp/2017JACET_Set-sunan.pdf)
- 5) [http://global8.or.jp/JH5\\_Presentation.pdf](http://global8.or.jp/JH5_Presentation.pdf)
- 6) 北海道情報大学における学生の国際交流推奨モデル／小田島 敬太・穴田 有一（北海道情報大学）  
[http://global8.or.jp/Hokkaido\\_J\\_StudyAbroad\\_Step.pdf](http://global8.or.jp/Hokkaido_J_StudyAbroad_Step.pdf)
- 7) <https://www.studyabroad.co.jp/univ/>
- 8) <https://www.ryugaku.co.jp/>

